

羅臼湖部会の現地踏査（第6回、9/14）の結果について

1. 参加者（敬称略）

- 知床博物館（内田）
- 羅臼町・知床世界自然遺産協議会（佐々木）
- 羅臼町（遠嶋）
- 根室振興局（宮部）
- 根釧東部森林管理署（梶岡）
- 釧路自然環境事務所（野川、三宅、木村）
- ニュージェック（川端）

2. 踏査のルート

ルート全体

3. 踏査ルートの概要

植生の専門家に同行してもらい、付替ルートの確認を行った。冬道の入口から二の沼までの付替ルートおよび羅臼湖最終展望台付近の付替ルートを踏査した。

4. 主な議論

○二の沼

- ・ぬかるみの酷い箇所などは、枕木の上にグレーチングを置くのが良い。その際、グレーチングを木柵にはめるなどして固定する方法が、大雪山の沼ノ原などでも取り入れられている。
- ・グレーチングの利点は耐久性が高く、メンテナンスが容易であること。欠点はコストが高く、景観上なじまない可能性があることである。
- ・グレーチングを採用する場合、枕木や木柵は腐朽するため、それらのメンテナンスが容易な構造とすべきである。
- ・グレーチングの直置きや枕木の上にグレーチングを置く手法は、凍上でガタガタにならないのかが気がかりだ。
- ・グレーチングは木柵で囲って設置しなければ強度を保つのが難しいと思われる。

○三の沼

- ・展望デッキ周辺は特に発達した希少な湿原植生であるため、既存の木道は可能な限り撤去すべきだろう。
- ・展望デッキについては、一部に階段を設けて高さを確保することにより「逆さ羅臼岳」がきれいに見えるようにすべき。

- ・展望デッキや付近の木道はグレーチングによって施工し、湿原植生に光が当たるよう配慮したほうが良い。
- ・展望デッキからの付替えルートは、涸れ沢方向に木道を新設するのが良いのではないか。対岸に道が見えているため、木道が無くとも踏み込む利用者がいると思われる。
- ・展望デッキからの付替えルートは、湿原植生の保護の観点から木道の新設ではなく、影響の少なそうな箇所を選定して迂回させる方が良い。
- ・展望デッキから現道へのルートは、所々ミズゴケやミズバショウなどが生えるが、それらを避けてルートを選定すれば問題ないだろう。
- ・現道への接続は、現道の木道が極力不要になるよう、接続箇所を工夫すべき。

○アヤメが原

- ・湿原植生に木道が設置されている部分、水辺のそばに木道が設置されている部分については、ササやハイマツ帯に付け替えるべき。

○四の沼～五の沼

- ・ぬかるみのひどい部分や四の沼から五の沼において付替えを実施するのであれば、地元関係者との議論が必要。その際、工法についても意見を聞くことが必要ではないか。

○羅臼湖

- ・最終展望台付近の付替ルートは、極力ハイマツ帯に寄せて設定すべき。
- ・五の沼手前までショートカットするルートも良いと思われる。

状況写真



三の沼デッキから湿原を通過する場所の様子



三の沼脇を通過する様子



羅臼湖の木橋手前から左折し、ササ帯を通過



羅臼湖のデッキから、通過ポイントを撮影



五の沼手前までショートカットする案の出口



第五回 羅臼湖踏査ルート(2011.9.14 実施)